

## 令和3年度第3回長野市環境審議会 議事録

### 【開催概要】

- ・日 時：令和3年10月18日（月）10時00分から12時00分
- ・場 所：リサイクルプラザ 大会議室
- ・出席者  
委 員：大澤会長、高見澤副会長、穴山委員、飯尾委員、倉崎委員、篠田委員、高木委員、錦織委員、山岸委員、赤羽委員、鈴木委員、中澤委員、早川委員、宮沢委員、小林委員、松本委員  
アドバイザー：長野県環境保全研究所自然環境部 浜田主任研究員、北野主任研究員  
事務局：伊熊環境部長、安塚環境部次長兼環境保全温暖化対策課長、高木廃棄物対策課長、清水生活環境課長、中根資源再生センター所長、内山衛生センター所長、山口主幹兼環境保全温暖化対策課長補佐、新井環境保全温暖化対策課長補佐、桑原環境保全温暖化対策課長補佐、藤原環境保全温暖化対策課長補佐兼生活環境課長補佐兼公費解体室長、吉原環境保全温暖化対策課係長、宮原環境保全温暖化対策課係長、徳永環境保全温暖化対策課主事、米持環境保全温暖化対策課主事

### 【次 第】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項  
第三次長野市環境基本計画について  
(1) 第三次長野市環境基本計画の素案について  
(2) パブリックコメントの実施について
- 4 その他
- 5 閉 会

### 【資 料】

- ・本日の次第
- ・【資料1-1】【資料1-2】【資料1-3】第三次長野市環境基本計画の素案について
- ・【資料2】パブリックコメントの実施について

### 【会議内容】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項  
第三次長野市環境基本計画について  
(1) 第三次長野市環境基本計画の素案について 【資料1-1】【資料1-2】【資料1-3】

(穴山委員)

76ページでご説明いただいた施策テーマ3-4の管理指標は、現状値8地点が目標値7地点以上というのは、現在9つあるうちの8地点がきれいな水で、目標値は若干落ちてしまうかもしれないが、7地点以上にしていくという趣旨か。

(事務局)

水質階級とは、川の中に住んでいる水生生物の種類を把握した上で、水質の状況を4段階に区分する調査である。例年8月に調査を実施しているが、降雨や濁水といった河川の環境の影響を受けるため水生生物のバランスが変わる年がある。

過去5年間を集計すると、水質階級の得点が8点から15点となり、令和2年度は8点という良好な数値であった。

経年による影響を考慮した上で、指標目標を「水質階級1の地点数」と改めた上で、よりよい指標目標としては、「水質階級1の地点数」を全体9河川のうち7地点以上とあらためるものです。

(穴山委員)

目標はご判断だと思う。内部管理指標として、自然環境などの外的環境によって結果が振れるものだけを見ているとなかなか実態が見えてこないのので、外的環境による影響分を回帰などで補正して使うといいと思う。

(錦織委員)

再生可能エネルギーの政策のところで、産官学の連携で新しい技術開発を行っていくというような助成事業を取り入れていく考えはないか。

(事務局)

長野市商工労働課で実施しているものづくり支援金については、再生可能エネルギーに関するものが入ってくる可能性は当然あると思う。ただ、それを再エネだけに特化することは、難しい部分もあり、現時点ではこういった表現に止めているが、考え方は委員おっしゃる方向で進めていきたい。

(山岸委員)

非常に読みやすく分かりやすく説明されている基本計画であると思う。市民にも自分事として大事なことだという意識を持ってもらうようにホームページやSNSによる情報発信に期待したい。

(篠田委員)

17ページの望ましい環境象に「未来につなぐ」とあり、その説明として「引き継ぎます」や「みんなで行きます」という言葉が入ったところがいいと思った。

それに伴い、学びの部分で、計画が小中学校、高校、大学、市民むけと段階ごとに切れているような印象がある。その間のやりとりが強調されると、市民全体で環境問題を一緒に考えて取り組むということになると思う。

また、87ページに「家庭内で環境問題について話し合い」とあるが、子供に対して大人が講義するのではなく、子供からも学ぶものがあるというスタンスがあるといいと思う。

さらに、87ページのコラムの中で「こどもサミット環境標語」となっているが、これをもう少し拡大し、こどもサミットだけでなく、全員で取り組んでいくことが協調されるといい。

(事務局)

小中学校だと義務教育の中で総合学習として環境を扱うと聞いているが、高校だと自主的なかたちになると考えている。一例をあげると、長野県内の高校生、大学生が自主的に活動するユースリーチという団体がある。長野市温暖化専門部会でもユースリーチと話をしたことがあると聞いている。89ページのながの環境パートナーシップ会議では、次の担い手がみつからないことが課題となっている。若い人は、SDGsなど世界規模の大きなテーマで動いているが、同時に地域の環境を大事にしたいという方も非常に多いと感じている。なんとかその二つを結び付けたいというのがこの頃のテーマである。ながの環境パートナーシップ会議がどういった活動をしているかと次世代につなぐために皆さんの力を借りたいことを若い人に伝えるイベントなどを考えていき

たい。89 ページの計画の推進のイメージの推進体制には、具体性のあるものを分かりやすく、いろんな分野の方を巻き込んで進めていきたいという思いが込められているとご理解いただければありがたい。

(高木委員)

他にもあると思うが、例えば 31 ページの基本目標の達成状況の指標に現状値と目標値が出ているが、現状値 (H29) とある。他のところで 2017 年と書いてあるので、可能ならば全部西暦にしていただきたい。目標値のところも 2026 年目標値と書いていただいた方がよいのではないか。2030 年や 2050 年も出てくるので、分からなくなってしまうのではと思う。場所によっては 2017 年 (H29) ではない現状値もあると思うので、その辺も統一してチェックしていただきたい。

(事務局)

特に温暖化対策の部分について、2030 年や 2050 年というものがあるので、確認して全体をご指摘の通り修正する。

(小林委員)

30 ページの 2030 年目標に「すべての新築建築物の ZEH 化実現」とある。国や県が補助金を出しているが、実際に ZEH 化するのにかかる額には、光熱費がうくことを考えても足りない。あと 8 年の間にすべて ZEH 化するためには、手厚い補助をつけて経済効率性を高めることしかないと思う。今は、補助金適正化法で、国と県の補助金の併用を認めていない。本当に 8 年後に温室効果ガス排出量 46%削減と新築の ZEH 化を実現するのなら、補助金を見直し、国の補助が出ていないところを県が補助するとか、もうちょっと経済性を上げるような仕組みになるよう市からも国や県に言っていただきたい。実務をやる市からあげていただかないと、市民にとってもハードルが高すぎると思う。計画はこれでいいが、実行するときには市民にとってやりやすいものにしていただきたい。

(事務局)

前回の審議会でも補助金は非常に有効な策だご提案をいただいているが、財政面等を考えると立ち上げるにはハードルが高い。国や県が補助事業を持っているので、その活用をしやすい啓発を行う。また、前回、高木委員からご提案いただいたニーズとシーズと結びつけるような協議会などで聞かせていただいた声を基礎自治体として国、県に上げていくというような形も考えられる。目標について長野市単独で達成できるとは思っておらず、目標設定も、国、県の目標を意識して作っているので、連携を図る中で私ども基礎自治体の役割を果たしていきたい。

(2) パブリックコメントの実施について 【資料 2】

・全体について

(松本委員)

5 ページの長野市の気象の概況のところ「気象庁 (長野観測所)」とあるが、これはアメダスではないので、長野地方気象台と訂正いただきたい。

4 その他

5 閉会